

令和3年度第8回東播磨新地域ビジョン検討委員会

議事録

- 1 日時 令和4年2月18日（金）13:30～14:30
- 2 場所 加古川総合庁舎5階AB会議室
- 3 参加者 15名（一般7名 行政8名）
- 4 内容 次のとおり

局長挨拶)

委員長) 先ほど局長からお話しいただいたように、今日が最終回と言うことで、一緒にものを作ってきたと言うことで私にとっても大変いい経験になりましたし、皆様にとってもかけがえのない経験になったのではないかと考えております。もちろんこういうビジョンというのは作るだけでなく、どう実現させていくのが課題になりますが、その方向性については、先ほど局長からございましたが実はまだ、ビジョン委員会体制ではないけど、ということでどういった形になるかまたお話をいただきたいと思いますが、我々の作り上げたビジョンが実現するに当たってはこれからも皆様方のお力添えが必要なことは多分間違いないと思いますので、作りっぱなしではなく、皆様も一緒にこれを実現したいという風に考えております。ということで今日は本当に最終回ということになるのですが、こうした新しいビジョンを作るに当たりましては、当たり前ですが県民の意見を聞く、反映させるということもありまして、パブリックコメントを実施しました。これにつきましては既にご報告をさせていただきました。そのパブリックコメントについてのご報告と、パブリックコメントを反映した本体案について最終的なご確認をいただきたいと思います。今日は蔓延防止等重点措置も出ていますので、あまり長時間会議は出来ませんが、今日最終回ということで、出来れば皆様から一言ずつお話をいただきたいなと思いますので、ご準備をよろしく願いいたします。それではまず事務局から資料の説明をお願いいたします。

事務局資料説明) それでは、まず、お手元の資料②「東播磨地域ビジョン2050（案）」への県民意見と県の考え方」。をもとに、パブリックコメントのご報告をさせていただきます。こちらの様式は、パブリックコメント実施結果の公表用ものとなっております。今回の意見募集は、令和3年12月27日～令和4年1月

14 日までの間で募集をし、6 件のご意見をいただきました。意見の概要と考え方についてご説明します。まず、意見①では、「警察官の地域巡回や町内会の見回りを強化するのも良いと考える」というご意見をいただいております。こちらは、お手元の資料①本体案の p33 第 8 章 主な取組「防犯上の向上」の参考事例「犯罪発生抑制のため、住民、行政、関係機関が、住民であれば声かけや見守り活動など各々の役割を果たしながら連携を図り、一体となって取り組む」のところで、警察官は行政組織に含まれているという考え方で「記載済み」としております。次に、意見②では、「「パートナーシップ制度」を東播磨地域全体で整備すべきだと考える。」というご意見をいただいております。こちらは、本体案 p34 の「多様な人々が混じり合い支え合い認めあう社会」の参考事例「パートナーシップ制度など多様な生き方を支える制度や環境を整備する」と記述していることより「記載済み」としてしております。次に、意見③では、「小中学生に携帯端末を持たせ、親と位置情報を共有するもの（加古川市の施策で見守りサービスなど）は、安心安全で子育てができる環境づくりと治安維持に貢献できると考える。」というご意見を頂いており、こちらは、本体案 p38 「デジタル技術の活用」の参考事例「県、市町、関係機関の連携により、ICT や AI 等の新技術やデータを活用しながら地域課題を解決し、安全安心で快適な利便性の高い社会サービスを提供するスマートシティの取組を推進する」と記述していることより「記載済み」としてしております。次に、意見④では、広報の仕方について、「SNS を更に駆使して若者に行政を身近な存在として感じてもらう。」意見⑤では、「若者に東播磨について興味を持ってもらうためには、もっと分かりやすく SNS を用いて宣伝・・・」、意見⑥では「新ビジョンを様々な主体、特に若者たちに発信し考えるきっかけを作るためには、SNS を駆使すべきだと考える」というご意見をいただいております。これらの意見を踏まえ、本体案 p42（最後のページ） 第 9 章 ビジョン実現のためにで、朱書きのところとなりますが「・・・このビジョンを学校現場での活用や、SNS の発信により 多くの若者たちに知ってもらう機会を得ること・・・」と記載し、微修正しております。また、こちらでのご意見は、今後のビジョン普及に関係したご提案もいただいておりますので、こちらについては【今後の参考】とさせていただくこととしております。パブリックコメントのご報告、パブリックコメント反映後の本体案の修正については以上です。次に、参考資料①として、昨年 11 月 30 日に開催されました「未来フォーラム」の概要をご報告させていただきます。こちらは、委員長、委員をはじめ

め東播磨地域でご活躍されている方々をお呼びして、兵庫県参事、局長を交え、「東播磨地域の未来について」をテーマに意見交換したものです。こちらで出た地域の課題、今後の地域づくりの取組についてなどは、本体案に盛り込まれている内容のものであると確認しております。参考資料②「新しいビジョンの推進」につきましては、令和4年度以降の主な取組内容として、「地域ビジョン企画委員会の運営等」として、「地域の多様な主体をつなぐプラットフォームとなる協議の場を各地域に設置」することと、「対話と学びの場づくり」として、「県民が地域の未来を語り合い、学び合う場づくり等を推進」することと「新ビジョンの県民への浸透を図るため、冊子・動画等を作成」としており、詳細については新年度に入ってから確定する予定です。そして、今後のスケジュールにつきましては、本日の検討委員会終了後、本体案を確定、3月3日に全県版議決以降に、全県版・地域版の策定を記者発表する予定です。記者発表後、HPに確定した「東播磨地域ビジョン2050」と「東播磨地域ビジョン2050（案）への意見と県の考え方」を公表予定です。資料のご説明は以上です。

委員長) ありがとうございます。パブリックコメントでございますが、3人の方から6件ということです。ちょっと少ないかなと思われるかもしれませんが、時期的にパブリックコメントが多い時期だったと聞いています。なので分散してしまって特定のものに集中するということがなかったようです。やはりパブリックコメントは時期を考えなければいけませんね、時期的に集中するので。各市町とられていますのでこういうことも起きます。しかしそれでも6件のご意見を賜り、内3件を反映させていただき、残りの件数は既に記載済みということで対応させていただくこととなります。ただご覧いただきましたらわかりますように、全般的な、批判的な内容はほとんどなく、基本的には我々が議論してきたことを踏まえた、あるいはそれについてもう少しさらに良い方法があるのではないかと、といったご意見であったかと思えます。そういった意味ではこの場で皆さんと協議させていただいたこと、あるいは協議の進め方自体に問題はなかったのではないかなと、自画自賛ではありますが思っているところであります。パブリックコメントとその反映の方法、それから今お手元にある案、未来フォーラムの議事録と、新ビジョンの推進ということで、まだ内容はこれからだということで具体的なものは見えてこないですけども、そうしたものについて一応資料全部ご説明いただいたわけですが、何かご質問ご意見あればお受けしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

委員長) ほぼ全ての県民局でビジョンがほぼ完成しているということでござい

まずけれども、局長は他の県民局のものも全てご覧になりましたか。まだ。い
ずれそういった、比較といいますか、違いがあると思いますけれども、その中で
東播磨の特徴も見いだせるかなと思います。何かご意見ご質問あれば。

委員)細かいことですが、パブコメ後の修正で本体 42 ページの赤で書かれてい
る「や、また SNS の発信に」のところですが、別資料の「県の考え方」には、カ
ギ括弧を用いて<「SNS を駆使すること」と記述を加えました>とあります。カ
ギ括弧を使うとそのままの文言、つまり「SNS を駆使すること」を入れたという
意味になってしまうので、表現を合わせた方がいいでしょうね。

委員長)ありがとうございました。修正の方お願いいたします。他いかがでし
ょうか。私もここは読み方の問題だと思うのですが、参考事例に書いてあるとい
うことである意味記述済みですよということなのと、おそらく意見としてはもっ
とこれを強調して欲しいという部分があると。そのあたりの認識の差異とい
うのはもしかしたら回答をご覧になられて、確かに参考事例には書いてあるけれ
ども県としてもっと推進してよ、というような想いが反映されていないねと、こ
ういうご意見があるのかなと思いますが、やはりこういった計画というのは皆
様ご存知のとおり、どうしても総花的といいますか、全体的にバランスを取らな
いといけないという中で、県の立場としては参考事例に入っているということ
が、ちゃんと認識をしており、必要に応じてそれに対して施策を追求していきま
すよという風に解釈いただければなと思っております。例えばデジタル技術の
活用で日本のサービスなどはいいいというご意見は確かにありますが、一方でそ
れどうなの?という意見もあるわけですね。そういった意味で、これを一方的に
進めますよというわけではなく、参考事例で取り上げておいて、必要に応じて施
策が必要なときはビジョンを考えながら進めていかなければいけないと思いま
すが、このあたりはバランスの関係でこういう書き方になっているということ
で、おそらく書いた方からすると想いが反映されていないじゃないかと思われ
るかもしれませんが、そこはそういった意図であるのご理解いただければと思
います。どうでしょうか、ご意見ご質問があれば今のうちにお願いたします。
他のことでも結構です、ビジョンの推進のことについてでも。局長、これ 2180
万円は全県で 2180 万円ですか?少ないですね、思った以上に。

委員) 2180 万円ということですが、今東播磨ビジョン委員会をはじめとした推
進はどれぐらいの予算ですか。

局長) 東播磨県民局は 200 万程度です。なので 10 県民局で 2000 万、それに本

庁経費がつくので、同じぐらいになるかなと。

委員長) ビジョンの活動に関係するもの、とすると幅広くなってくるので金額がわからないかもしれませんね。他なにかご意見ございませんでしょうか。そうしましたら先ほどの委員からのご指摘は修正させていただくということで、ご質問ご意見が無いということで、あともし微調整がありましたら私と事務局にお任せいただいてよろしいでしょうか。申し訳ありませんがよろしく願いいたします。その点も含めてたまたまお手元にある案を最終案とさせていただきたいと思います。皆様よろしいでしょうか。ご異議なしということで、これをもちまして最終案とさせていただきます。先ほども申しましたけども、少しだけ時間もございますし、あまり長時間は出来ませんが、出来れば最後にこれを作り上げてくるに当たりまして皆様から感想などをお聞かせいただけないかなと思うのですが、どうでしょうか、順番に、よろしいでしょうか。どんなことでも結構です、苦労した話でも良いです。よろしく願いいたします。

委員) 私は 2018 年からこの現行ビジョンに関わらせていただいて、2 期活動させていただきました。そのビジョンを新たに作るという経験をさせていただきました、本当に、今までにない経験をさせていただいたなと思っております。今の仕事の方でも、計画を作るといったところもさせていただいている中で、こうやって議論しているような所を活用させていただいたり、すごく良い経験になったなと思っております。パブコメの 2p のところにもありますように、私大の方で働いておりますので学校教育の中で地域政策、地域公共に関わるというところの重要性もご意見の中にもありましたので、今後につながる新たなビジョンの企画委員会であったり、対話・学びの場づくりというところに期待したいなと思います。地域の方々が協力し合って地域の課題を解決していくということが重要であると思っていますので、こういう取組に期待したいなと思っております。以上です、ありがとうございます。

委員長) どうもありがとうございました。では、次に。本当に地域ビジョン委員長としても色々とお力添えいただきましてありがとうございました。

委員) 4 年間やってきた中で、この 2 年はコロナでなかなか活動が出来なかったという所もありまして、皆様も本当に色々な活動を企画してやるということが出来なかったことがあります。ただこれからは新しいビジョンで 30 年後ということで、こういう風実践しようということが、色々な人の意見を聞きながらできあがったということで、よかったなと、私も勉強させていただいたなと

思っております。ただ実現するのにどんな風にしていくのかというところがまだ少し明らかにされていませんけどね、この企画委員会とかもありますけど分りませんので。まずはこのビジョンが出来て、県全体のビジョンもそうなんですけど、より多くの人に知っていただくということが、私たちも携わった人間としてそういうPRをしていくのですが、まずは県の職員さんがこんなものが出てくるんですよと、1人1人が知っていただくということをしないと、他所の部署作っていると、そういうことがなかなか、ビジョン課で作ったやつだな、ということになってしまって全体のものにならないというのは私も仕事していてよく思ったことなので。まずそういう県の職員さん1人1人がやっぱり広報係として、こういうものがあるよと県民に知らせていくということをぜひともしていただきたい。そのために私どもも出来ることがあればやっていく。やはりより多くの人に知っていただけないと意味がありませんので、これだけの人数で色々作っていますのでそういう風にしていけたらなと、私たちもその一翼を担っていきたいなと思っております。これからもよろしく願いいたします。

委員) 失礼いたします。まずは新地域ビジョンの策定に当たりましてこの2年間お疲れ様でしたと申し上げたいと思います。そしてこの2年間は私自身も色々と考えさせていただく機会になりましたことを感謝申し上げます。思えば平成11年に、夢21委員として2年間東播磨の地域ビジョンの策定に当たってまいりました。それから実践活動として東播磨の特性である水辺を活かしていくために、水辺に学ぶプロジェクトというグループを立ち上げてまして、現在20年活動しております。そして水辺だけではなく皆様には地球温暖化防止活動推進員になっていただいておりますので、県の方であったり、加古川市、高砂市であったり、色々なところで委員として出向いていただいているという風に活動しておりますし、また、行政の方にも色々私たちの活動の場で協力いただいております。自分たちの活動が地域の人たちと一緒に活動出来ているということ、本当に嬉しく思っているところです。ただこの2年間は思えば、コロナという経験のないような事態に直面しまして、色々な制約がありました。例えば活動にしましてもたくさん人が集まるような活動がありますので、自粛しなければならなかったりとか、個人的には海外にも行けなかったりとか、そういったこともいろいろありました。ですが、本当に健康で平和であれば色々なことが出来るのではないかなと思います。この東播磨のビジョンが、ページを開くと、分りやすく丁寧に説明されていると思いますので、これを地域の人たちに知っていただいて、1人でも多くの方に関わっていただき、今生きていることが、コロナを経験したからこそ、コロナ前のことがいかに有意義な時代であったか、幸せであったかと実感されている方も多いと思いますけれども、その中でぜひ一つ

でも多く地域の発展のために関わっていただきたいなと思いました。そして地域だけではなく世界など色々見ますと、いつどんなことが急に起こるかもしれない、そんなことにもすぐ対応できるような人材といいますか、そういった人たちも育てて行って欲しいなと感じたところです。本当に 2 年間ありがとうございました。今後の発展を祈念いたしております。

委員長) ありがとうございました。20 年あまりビジョンに関わっていただいて、ある意味先ほどおっしゃっていただいたように、理想はこうですよ、21 世紀の姿はこうですよ、という姿をお示しいただいて、それを実践されてきたという、ある種ビジョンが目指してきた一つのモデル的と言いますか、委員の取り組まれてきた、私たちも見てきた姿かなと、改めてお聞きしながら思いました。ありがとうございました。

委員) 失礼いたします。実は私も 20 年前に 1 期生でした。関わり方は青年会議所からの出向的なことで、そんなに力を入れていなかったかもしれませんが、1 期、3 期、9 期、10 期とスタートと最後かも知れない 10 期に関わらせていただきまして、なかなかやはり普通の家で主婦をしていたら経験できないこと、体験できないことなど、色々な学びがあったと思います。そしてまだまだ地域に課題が多くあると思うのですが、子供だけではなく大人も安心安全というのは 10 年後も 50 年後も変わらないものであろうかと思えます。実際私自身この 2 年間皆様とお付き合いさせていただく中で、病気を患いまして、途中お休みいただいた時期もあったのですが、やはり今の医療も信じ、自分の寿命も信じながら、この大事な命を何のために使っていけるのかなと思ひながら、このすてきな東播磨地域であって欲しいと願っていますし、そのために出来ることであればまだまだ活動を続けていきたいなと思っています。皆様とご縁がありましたことを感謝申し上げます。ありがとうございました。

委員長) 行政委員の方で播磨町さんからお願いしても良いですか。

播磨町) 後半のここ数回だけの参加というところで大変恐縮です。私自身 10 年ほど前ですけれどもビジョン委員を 1 期させていただきまして、こういった形でもう一度関わるというのは非常に感慨深いものがございました。その中で私自身ビジョン委員やっていましたが仕事と両立して地域の活動は中々正直厳しい部分があるかなと実感しております、この新しいビジョンの新しい時代に向けて、よりそういったところも、私ども播磨町の総合計画でも協働ということを今後押して参りますので、地域の方と一緒にやっていくというところで、この

ビジョンを含めて県も町も市も地域住民皆さんもということでやっていきたいと思しますので、是非今後ともよろしく願いいたします。

稲美町) ありがとうございます。我々も色々と勉強になり、並行して私どもも総合計画を作りながら勉強させていただきました。その中で最初に30年後のビジョンということで、これは少し無茶ではないかと思いながらスタートしたわけですが、おそらく中間でも見直しを何回かかけられていくと思います。その見直しをかけていく中で我々市町の間がどう関わっていくかというのは最初のビジョンを作られてから20年になりますが、その時の県と市町の立場と、今の立場も大分変わってきておりますし、また10年後20年後さらに変わっていくだろうと思います。そのような中で東播磨というのは可能性がある地域だと思っています。既に完成しているような地域と違って、まだまだ発展の余地がある地域だと思っていますので、そのような中で県と市町と、どう携わってどう協力しながらこの町を、東播磨を盛り上げていくかというのはこのビジョンの役割ではないかと思っておりますので、混沌とした時代ですのでどうなっていくか分かりませんが、住民と行政同士もそれぞれ協力しながら良いものができるらなと思っておりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

委員長) 確かに市町との関係も重要で、考えてみると例えば京都府であれば京都市あつての京都府です。圧倒的に京都市が大きい。大阪はまだ東大阪や堺市もありますが、大阪もそうです。兵庫県の場合は政令指定都市である神戸市が150万、残りが400万、GDP等考えてみても実は県の方がまだ力を持っています。そういう意味でいくと関西のエリアを考えると、県と市町をどう関係づけていくか、そういうふうに行く他の大阪とか京都とは違った特徴を持っているのかなと思いますので、先ほど稲美町さんおっしゃっていただいたようなことは非常に関心があるような、改めて聞きながら思いました。

高砂市) 先ほどから何回もお話に上がっていますが、実現に向けてというところでは、私ども市町も大なり小なり色々な計画を持っています。計画を作ってしまった後どういった方々がどれぐらいの数見られているのかということは全く掴むことが出来ない。行政としては作成してホームページに挙げて完了という所が若干ございます。これからこのビジョンに関してもSNS等駆使して周知はされていくのかなと思います。ハードルを上げるわけではありませんが、私どもも参考にさせていただきたいので、今後の実現に向けての動きについては頑張っただけたらなと思います。私個人としましては人事異動の関係もありまして今年度からの参加と言うことで、前年度皆様の方で大きく骨子の方を

固めていただいた上で参加させていただいております。勉強になることも多くありましたので、これからの役所生活の中で活かしていければなと思います。ありがとうございました。

委員長) 今日初めて来て感想というのも申し訳ありませんが、読まれて何かご意見がありましたらよろしく願いたします。

加古川市) 今日初めての参加です。ビジョンを見せていただいたの感想ですが、加古川市でも総合計画に従って色々な取組を進めています。そこに網羅している分野とビジョンに書かれている分野は全く違うものではなく、重なり合っているものが多分にあります。ですので、加古川市で総合計画に一生懸命に取り組んでいくことで、ビジョンの実現に貢献できるのではないかと考えております。個人的に気になるのは地域未来フォーラムの議事録にあった後継者不足等の話です。農業の分野でも、今まで兼業でされていた方が、お仕事が忙しく営農組合に農業を任せていく。そうすると兼業しているときに持っていたノウハウが失われてしまい、いざ退職して時間が出来たときに農業を始めようとしても、農業をする手法がわからないということが起きている。集約化・効率化という部分と、技術を継承していくという部分が中々難しい。よかれと思ったことが後々にどういった影響が出るか見通せないところもある。また、働く世代の場合、働きながらも男女ともに子育てしていく中で、ワークライフバランスに取り組むと、地域の活動というのは当然大事ですが中々参加する時間がないということもある。今まででしたら、お仕事をリタイアされて体力もお時間もある方が地域活動を担っていただいたのが、今後はますます難しくなっていくと思われる。地域で活動される人材確保も考えていく必要があるのかなと感じているところです。雑多な話になりましたけれども以上です。

委員長) ありがとうございます。

委員) 皆様大変お疲れ様でした。皆様の尽力で良いものができあがったのではないかと考えております。私自身のビジョンとの関わりを振り返ってみると、早い時期に一度東播磨のビジョンづくりに参加させてもらったことがあって、その後、だいぶんブランクがあって、また今回専門委員と言うことで4年前から務めさせていただいて、今回又新しいビジョンづくりという所に関わらせていただくことになったのですけれども、前と今回を比較してみるとだいぶん変わっていて、最初の頃は本当に住民を集めて班を作ってそこにビジョン委員や専門委員が座長のような形でグループワークをして色々な意見を出し合ってみたり、

すごく泥臭いことをやってきました。その時の状況を考えるとすごく洗練されてきたなと感じています。洗練されてきた中で今回私は未来デザイン部会で少人数での密度の高い議論をさせていただくということをやって、すごく私自身の勉強にもなったし、こういうことを言うと偉そうですけれども、地域の担い手の方が頼もしいというか、そういったことを感じた次第です。洗練されてきたことはすごく良いことですけれども、ある意味安定してしまった、そういった部分もあるかなと思います。泥臭かったけれども熱気のあった20年前と今回を考えると、ある意味ここで時代の変化もあって、仕切り直しをして新しい形で、というのはタイミング的には時宜を得たものかなという感じはします。その上でこれまでの1つのことが終って新しくゼロからスタートするというのではなくて、この20年間で私が密度の高い議論の中で感じたような地域の方々の成長と言いますか、そういったことがあった上で、次の新しいフェーズに入るといことなので、この新しいビジョンを実現するにあたって、この20年間育ってきたものの上に、20年前私が座談会で感じた、熱気みたいなものが加わったらさらに良いものになって、今回のビジョンが実現していくということにつながっていくのかなと思います。このビジョンを基に地域の方々を支え、このビジョンが地に足がついていくことを祈念して最後ということで、お疲れ様ということをお願いいたします。以上です。

委員長) 名簿を見ますと先生は最初のビジョンの名簿に入っていますので、夢ビジョンの時から関わっていただいていたということで、本当にありがとうございます。

委員) 難しかったですね。稲美町さんもおっしゃっていましたが、2050年というのは、本当に想像がつかない世界でした。私自身は20年前に全県と阪神と神戸のビジョン作成に関わり、東播磨は1期遅れて第2期ビジョンから関わらせてもらいましたが、20年前は先ほど局長もおっしゃたように参画と協働ということに皆、とても熱意を持っていて、住民と行政職員が入り交じってワークショップをしたり、色々なところにヒアリングに行ったり、ある意味、楽しく作ることができました。今回は、私自身の想像力がなくて2050年がイメージできず、本当に難しかったです。それから、初期の頃の議論ですが、皆さん、覚えてらっしゃいますかね。全県データの中で無住化が進むという図があったにもかかわらず、縮退の話があまりなくて、人口減少に本気で向き合う覚悟があるのかということで少し論争になりました。その時には「行政としては縮退や後ろ向きなことは言えない」という話と「東播磨は他の地域に比べると大丈夫だろう」という話でうやむやになってしまったのですが、個人的には縮退について、腹を据

えて議論した方がよかったのではないかと、思っています。東播磨でも人口が増えている地域は確かにありますが、減っている地域もあって、都市のスポンジ化が進んでいます。防災上の観点からも、危ない地域からは移っていただくようなことも織り込むべきだったな、と今も考えています。東播磨ビジョンもそうですが、全県ビジョンの3番目に誰も取り残されない社会とあります。これはよほど覚悟を決めてやらないといけない命題で、限られた税金、限られた人材をどういうふうに使っていくのか正念場だと思っています。

先日『都市をたたむ』の著者である都立大の饗庭伸さんと過疎の研究をしておられる島根大の作野広和さんとが「縮小時代と向き合う」をテーマに議論されたオンラインフォーラムに参加したのですが、これほど社会が変わっていく中で、2050年まで大丈夫な処方箋など、おそらくないだろうという話でした。政策的に有効な期間が5年間程度だけれど、当面は役に立つ手法や処方箋～例えば空き地をポケットパーク化して住民のコミュニティを維持する～「10年は持たないかもしれないが、5年位はしのげる」という事業を実践し、そこに官・民両方のマンパワーと財源をつけて試行していくしかないのかな、と思った次第です。先ほど稲美町さんがおっしゃったように、2050年には基礎自治体と都道府県の関係や行政と住民の関係は、大きく変わっていると思います。今の時点で、私はそこを見通すことはできないので、5年間ぐらいは持つ小さな取り組みを皆さんと検討しながら、2050年を無事に迎えたいと思います。ありがとうございました。

委員長) ありがとうございました。副局長いかがですか、ご感想を含めて。

副局長) 初めから関わらせていただきました。始まった当初は本当にどういったものが作れるのか予想もつかなかったので、非常に不安でしたが、皆様方から貴重なご意見をいただきまして、今日こういう風に形が出来たというのは非常に嬉しく思っております。部会等の議論の中でも申しましたが私自身は県の北部出身でして、この東播磨地域の仕事をさせていただくのは初めてでしたが、皆様のご意見や実際個々で働かせていただいて、やはり兵庫県の中でもとびきり住みやすく働きやすい、非常に恵まれた地域ではあるのではないかと考えています。都会ではありますがそれほど大都会ではありませんし、少し足を伸ばせば自然豊かなところに行けると、これほど恵まれた地域はないのではないかとと思うのですが、今後厳しい時代、情勢になってきますので、恵まれた地域と言うことにあぐらをかくことなく、日々行政マンとしては市町の皆様と連携しながら、また、住民団体の皆様の協力を仰ぎながらこのビジョンを実現していかなければと思っています。2年にわたりましてお力添えいただきありがとうございました。

た。これからもよろしく願いたします。

委員長) やはり 1 番の功労者は事務局なので、できればお言葉いただきたいなと。私も最後に一言申し上げたいですがまずは事務局から願いたします。

事務局) 2 年前新しいビジョンを作るにあたりどこから取りかかって良いのかも全く分らないところを皆様にお導きいただきここまでやってくることが出来ました。本当にありがとうございます。検討委員会でいただいた貴重なご意見や若者アンケート結果やビジョンのアンケート結果の回答を見る中で東播磨地域に対する皆様の希望や期待というものをすごく感じ取ることが出来ました。この新しいビジョン実現のために皆様のご期待に応えられるよう今後も一生懸命取り組んでいきたいと考えております。長期にわたりご指導、ご協力いただきありがとうございました。

委員長) ありがとうございます。局長は最後に締めていただかないといけないので、私から皆様に一言だけ御礼を申し上げたいと思います。本当に 2 年間という限られた時間ではありますが、その中でしっかりと議論させていただきましたことは皆様のご熱心な討議のおかげだと思います。特に今回はやり方として色んなやり方が各県民局でやっていましたが、本県民局ではいわゆる課題を解決していくという部分と、もう一つは先ほど委員がおっしゃっていた未来を見据えますよと、それをちゃんと結合させますという、ある意味トリッキーな他の地域では多分やっていないようなやり方でビジョンを作ってきました。今皆様ご存知 SDGs という考え方ですね。それに対して元々行政なり我々が考えている課題をどう解決していくのかという考え方と、その二つがこれからの計画づくりの中で議論される中で、本地域ビジョンはその両方を兼ねるというやり方をいたしました。このあたりはとりまとめでいただいた事務局のおかげでございまして、おそらくそういうとりまとめがなければこういった形にならず分裂するのではないかと、そのあたりいつも大丈夫?といいながらやっていたのを記憶しておりますけれども、皆様のおかげと、繰り返しますけれども事務局のおかげでなんとか形になりました。一つは計画論という考え方から言うと、トリッキーなやり方ですが計画を作ることが出来たわけですが、皆様計画に関わったということで、ある意味地域をもう一度見つめ直したりとか、この地域が、30 年先を見通すのは難しいと言いながらもこうだろうと考えてくれたことは本当に良かったと思います、たしかに先ほど委員おっしゃられていたように、先まで見通すことはなかなか難しいです。実際に AI が描いてくれたいくつかの兵庫県未来像を拝見いたしましたけれども、それはある意味、兵庫県が多様だとい

うことを示しているにすぎないと。例えばこれは神戸を表しているよねとか、これは但馬地域を表しているよね、というのはなんとなく想像がつくようなものが未来像として出てきていて、その中で兵庫県は1番妥当なところを選んで、これは兵庫の未来だと言っているということなので、そのところからスタートしていますので、計画論という意味でいくなら、余談ですが兵庫県は計画論を作るときに色々なことをやってきた歴史がある県なので、今回はAIを使ったのですけれども、そういう意味では計画論としては非常に面白い計画論のプロセスの中で作られてきたわけです。ビジョンそのものは県民局単位で作って、以前はこれをただ単に合体させただけだと批判され、しかしそれを調整するんではないかと全体ビジョンを作り、それを評価するための美しい兵庫指標を作ったり、色々とは実は計画論という中でもこの20年間大きく色々改善が続けられてきて現在に至っている。そのある種集大成がこの東播磨地域ビジョンなのかなと私なんかは思っているところがございます。そういう意味で、こういったことに皆様と一緒に携わることができたというのは私にとってとても勉強にもなりましたし、良かったなと思っているところであります。最後になりますが皆様のお力添えに深く感謝申し上げますと共に、皆様のご決意の中にもありましたようにこれからもこのビジョンを見守っていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

最後局長に閉めていただこうと思っておりましたので、よろしくお願い致します。

局長) 局長挨拶